

○令和2年度終了（1年を振り返って）

コロナ禍に振り回された1年間だったような気がします。幸いなことに皆さんの協力もあって、本校や近隣の学校からは感染者がいませんでした。しかし、変異型が発生するなど日本を含め世界中が震撼したままで、未だ終息には至っていない状況です。そのような中でも皆さんはとてもよく頑張りました。一人一人が色々なところで活躍しました。学年が終わる今、自分が成長したことや頑張ったこと、或いは逆にもう少し頑張れば良かったことや反省点など、1年間を振り返ってみてください。できれば何か書き出してみると良いでしょう。そして、4月からの新学期のスタートにそれを反映させてください。2年生は学校の中心の3年生になり、1年生は中堅の2年生に進級します。そして新1年生が入学してきます。皆さんのさらなる成長と活躍を期待しています。

さて、明日から春休みに入ります。この休みを使って新学年になる準備をきちんとしておきましょう。まずは規則正しい生活を心がけ、読書や計画的な学習、家の仕事分担等、有意義に過ごしてください。また、コロナ対策として今後もしばらくはマスク着用や手指消毒、3密の回避など気をつけて生活しなければなりません。気を緩めずに取り組んでいきましょう。

○感動的な卒業式でした。

3月13日（土）、卒業証書授与式が行われ3年生が大原中学校を巣立って行きました。3密を避けるために1・2年生は教室でのリモート参加になりましたが、式の様子はICT機器を使用して中継され、同じ時間を共有することができました。事前に撮影した在校生の歌「大切なもの」には、皆さんの3年生への感謝の気持ちが詰まっていて、式に花を添えてくれるような合唱でした。1・2年生の皆さん、当日までの会場づくりや掃除、そして素晴らしい歌声をありがとうございました。卒業生も保護者の方々も喜んでくれたことと思います。3年生が残してくれた良き伝統を引き継ぎ、さらに良い学校にしていきたいと思います。



○東日本大震災から10年

平成23年（2011年）の3月11日、東日本の東北地方でM9を超える大きな地震と、津波が起こり多くの方が被災され犠牲になりました。さらに福島原子力発電所が事故を起こし、より大きな災害につながりました。あれから10年経ちましたが、今なお余震が続いており、元の生活に戻れず仮設住宅で暮らす人や他の都道府県に移ったままの人がいたり、立ち入りが禁止されている区域があったりと、影響が残ったままです。一方では住宅の再建やインフラの整備等の復興を遂げ、震災の記憶が風化してきているのではないかと懸念もあります。生徒の皆さんは当時まだ幼く、記憶がはっきりと残っていないかも知れませんが、色々なメディアでこのことについて見聞きしたと思います。どんなことを感じたでしょうか。私が見た報道番組ではある男性自衛官のことが取り上げられていました。彼は9歳で平成7年（1995年）の阪神淡路大震災に遭い、がれきの中から救出され九死に一生を得ました。その時に助けてくれた自衛隊員のことが忘れられず、「自分も人の役に立ちたい、人の命を助ける仕事に就きたい。」と志願し、自衛官になりました。そして東日本大震災では実際に現場に赴き活動したそうです。そして、自分が経験したように心細い思いをしている子どもたちを勇気づけたいと、仕事の傍ら積極的に子どもに声をかけました。優しさと思いやりのバトンが繋がっているのだと思いました。私たちにも今の自分が置かれている環境で、それぞれの立場で、できることやしなければならないことが沢山あるように思いました。

最後になりましたが、保護者の皆様、本年度は多方面で大変お世話になり、ありがとうございました。来る令和3年度もどうぞよろしくお願ひいたします。